

医療経済学 〈 B 5 〉

教員名

非常勤講師 築田 優 (和歌山大学経済学部准教授)

I 一般学習目標

「医学ならびに医療技術の習得にとって経済学は必要ない」と考える学生が多い。本当にそうなのでしょうか。医師も、医療のありかたを「患者の立場」・「一国民の立場」で考えることが求められています。そのため、医療経済や医療財政に関するワンランク上の知識も必要であることを理解しましょう。

II 個別学習目標

1. 公共政策の1分野である医療政策の必要性について要点を説明できる。
2. 今日の医療問題について医師および消費者(患者)の双方の視点から要点を説明できる。
3. 日本の医療制度の歴史について要点を説明できる。
4. 医療経済学の学問的特質と有用性について要点を説明できる。
5. 医療経済学における新古典派アプローチと厚生経済学・制度派経済学アプローチの相違について要点を説明できる。
6. 医療政策に対する社会学・政治学・経営学的アプローチの特質を有用性について要点を説明できる。
7. 社会保障制度の国際比較研究の動向について理解し、それをもとに諸外国の医療制度の特徴について要点を説明できる。
8. 日本の医療政策の決定システムについて要点を説明できる。
9. 今日の医療政策をめぐる選択と対立について要点を説明できる。
10. (以上の理解を踏まえて)今日の医療問題の解決策について自説を主張できる。

III 教育内容

1. 医療政策の諸問題
2. 日本の医療制度と社会保障制度
3. 医療政策と医療経済学
4. 医療政策と社会諸科学
5. 諸外国の医療政策と医療事情
6. 日本の医療政策の決定システム
7. 日本の医療政策をめぐる選択と対立
8. これからの医療政策の諸問題

IV 学習および教育方法

講義を中心とし、テキストやプリントを利用します。

V 評価の方法

出席状況(30%)、受講態度(30%)、定期試験(40%)の点数により評価します。ただし、2/3以上の出席が無い場合は試験の受験は出来ません。

VI テキスト

別途指定する。